

嬉野医療センターを受診された患者さまへ

研究情報公開について

通常、臨床研究を実施する際には、文章もしくは口頭で説明・同意を行い実施します。臨床研究のうち、患者さまへの侵襲や介入もなく診療情報等の情報のみを用いた研究については、国が定めた指針に基づき「対象となる患者さまのお一人ずつから直接同意を得る必要はありません」が、研究の目的を含めて、研究の実施についての情報を公開し、さらに拒否の機会を保障することが必要です。

当院では下記の臨床研究を実施しております。本研究の対象に該当する可能性がある方で、診療情報等を研究目的に利用、または提供されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先へご連絡ください。

研究課題名	(第77回 日本大腸肛門病学会 総会) 当院における頭側アプローチによる脾弯部結腸癌に対する手術手技
研究責任者(所属名)	燕 和夫 (消化器外科部長)
本研究の目的	脾弯局部付近の進行結腸癌に対する腹腔鏡下手術は、副中結腸動脈に代表される血管の破格が多く、技術的難易度が高いとされています。当科で行っている頭側からのアプローチによる手術手技は、頭側からの操作を先行しているため、内側アプローチの際に裏がとれており、剥離の終点が確認しやすいことから、安全で有用な手技と考えられます。
調査データの該当期間	2015年1月から2020年12月までの6年間
研究の方法 (使用する試料等)	2015年1月から2020年12月までの6年間に当科で大腸の腫瘍性病変に対して413例に手術を施行しました。横行結腸癌が30例、下行結腸癌が24例あり、そのうち脾弯部寄りに存在した25例を対象としました。責任血管は、中結腸動脈(MCA群)が8例、左結腸動脈(LCA群)が17例でした。各群の結果(MCA群/LCA群)は、平均年齢(72.8歳/69.1歳)、性(M:F=5:3/9:8)、BMI(22.0/23.1)、手術時間(263分/265分)、出血量(77.5/35.6g)、吻合法(手縫い:機能的淡々吻合=4:4/3:14)、術後合併症は、MCA群でイレウスと乳び腹水とSSIを各1例に、LCA群でSSIを2例と腹腔内出血を1例に認めました。術後在院日数は(24.5日/15.2日)でした。 さらに脾弯部結腸癌に対する手術手技の動画を提示します。
個人情報の取り扱い	利用する情報から、氏名や住所等の患者さまを直接特定できる個人情報は削除した状態で取り扱われます。研究成果は学会等で発表を予定していますが、その際も患者さまを特定できる個人情報は一切利用しません。
本研究の資金源 (利益相反)	本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。
お問い合わせ先	電話：0954-43-1120 (病院代表) 担当者：管理課長
備考	